試験改正前に資格取得を

■急激な需要増が予想される電気通信工 事施工管理技士

これまで2回にわたり新設された電気 通信工事施工管理技士について触れてき た。

電気通信工事の分野は、これまで技術 士資格の取得や長期間の実務経験を積む ことでしか監理技術者となることができ なかった。しかし、電気通信工事では需 要増加と技術者の数が大きく反比例し、 建設業界の中でも特に技術者不足が懸念 される事態となった。そうした背景があ ったため、時代の要請に応えるべく電気 通信工事施工管理技士が新設された。

いまや、工場やビルなどさまざまな施設において情報通信インフラの整備は必須のものとなっている。また、情報通信量の爆発的な増加に伴うデータセンターの増加などが見込まれているため、今後、電気通信工事の需要はますます高まり、電気通信工事施工管理技術者の活躍する場所はますます増えるだろう。

理説現場で対える



いる現行の検定方法を、学科と実地の両 面で技術者としての資質を問う「1次試 験」と「2次試験」に再編し、1次試験 の合格者に与える「技士補(仮称)」の 資格を創設し、技士補の専任配置を条件 に監理技術者の専任義務を緩和すること も検討している。

いまや施工管理技士試験のあり方が、 根本的に変革しようとしている。このような人材不足の状況を鑑み、技術者が求められている中、資格試験は合格すれば 足りるものではなく、建設現場で働いて きた生きた経験と技術を体得することが 求められている。

「技士補」資格の創設検討

■施工管理技士試験の再編

しかし、技術者が不足しているのは 「電気通信工事」だけではない。施工管 理技士の種目である「電気工事」「建築」 「土木」「管工事」の工事分野でも技術 者不足の問題は深刻である。

そこで、国土交通省では施工管理技士 試験を学科試験と実地試験に切り分けて

■先んずれば人を制す

試験が大きく改正される場合、一般的に難易度が上がる傾向にある。改正される理由はその資格においてそれぞれ違うであろうが、合格者の質を維持することは求められるはずである。つまり、単純に合格者を増やすだけでは資格そのものの低レベル化を招くということだ。今回

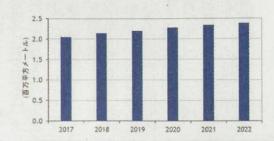


データセンターにはさまざまな情報が集まる

の施工管理技士試験については、「技士補」を見据えたものであり、一定水準の知識を証明するためにも難化すると見るべきであろう。

直近では2019年3月6日(水)から2 級電気通信工事および2級管工事施工管 理技士学科試験(前期)の申し込みが始 まる。

「先んずれば人を制す」という言葉が



国内のデータセンター延床面積は右肩上がりで増加している(出典:IDC Japan)

あるが、将来、受験を考えている方は、 必要な実務経験年数を満たしているので あれば、必要になったときではなく改正 前の資格取得をおすすめしたい。

CIC日本建設情報センターではこのような課題に応えるべく、施工管理技士 講座、テキスト、教材、講義方法を改革 し、新時代に対応するため日々研鑚を積 み、施工管理技士の育成に資するよう努 めている。

これから施工管理技士を目指す技術者には、CIC日本建設情報センターが蓄積したノウハウ、教材などを活用し、施工管理技士として大いに社会貢献を果たしていただくことを祈念する。

(CIC日本建設情報センター)

2019年3月5日付 建設通信新聞第14面(最終面)